

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.1



発行日：平成 27 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 24 回山部会WGを開催しました！

5 月 15 日（金曜日）に第 24 回山部会WGが豊田市森林組合の新庁舎にて開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の報告と今後の活動方針を話し合いました。また、長崎大学の太田貴大准教授による「矢作川流域における生態系サービス供給—受益関係の地図化について」の特別講演とディスカッションを行いました。

日時：平成 27 年 5 月 15 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分

場所：豊田市森林組合新庁舎 第 2 第 3 会議室

参加者：17 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

昨年度は、山村で活動する 21 の団体へ矢作川流域圏懇談会として取材を行い事例集としてとりまとめました。取材者と取材先の新しい交流が生まれ、新しいイベントや小商い、資金集め等の取組に発展しました。また、川・海部会との交流に寄与することができました。

今年度も 20 以上の活動団体（川・海の団体を含む）を目標に事例集の作成を進めます。



2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングは、矢作川流域で活動する個人・団体が困った時に話し合え、様々な情報を共有可能とする仕組みづくりを行うことを目的に進めています。

林業で言えば、プロから一般市民までが語り合える場所を木の駅等で行えるよう、呼びかけを行っていきたくと思っています。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

豊田市では、「豊田市森づくり条例」に基づき、「豊田市 100 年の森づくり構想」を平成 19 年に策定しました。この構想の実現に向け、間伐推進プロジェクト等の 6 つを柱とする具体的施策を行っており、これとは別に以下の新規事業を行います。

- ①地域材加工流通体制整備
- ②水源かん養機能モニタリング調査
- ③水道水源林間伐促進費補助金
- ④森づくり構想リニューアルプロジェクト・人工林現況調査業務、優良事例調査
- ⑤とよた森林学校開校 10 周年イベント



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

昨年度は、「さあ～しよう」という提案型の「木づかいガイドライン」にするため、提案者に対し原稿依頼を行いました。同時に、根羽村森林組合をリーダー役とする「スギダラ矢作川流域支部」を発足させ、流域内のイベント等とジョイントさせた「木づかいライブ・スギダラキャラバン」をスタートさせ、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこうという共通認識を持ちました。

今年度は、昨年度の活動を拡大し、森や木づかいのファンを増やしていきます。



5. 特別講演「矢作川流域における生態系サービス供給—受益関係の地図化について」を実施し、ディスカッションを行いました

現在、長崎大学の水産・環境科学総合研究科に在籍していますが、もともと名古屋市出身です。学生時代には、豊田市足助の森林を対象に社会科学的な面からの調査をしていました。それ以来、豊田市の森林に関わっています。

現在は、生態系サービスを研究テーマとしており、生態系サービスの評価、政策の中でどう活用するかについて矢作川を対象に考えてみたいと思います。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 関連団体への取材を始めて今年度で3年目であり、今年度で事例集を完結させる。この取材によって山川海の交流に貢献できたと考えており、今年の9月には東幡豆漁業協同組合と交流イベントを考えている。(洲崎)
- ・ 根羽村で新たな取材候補を探してみる。(南木)
- ・ 事例集IおよびIIに掲載済で取材先に挙がっている候補は、他に候補が見つからない場合の対象とする。(洲崎)
- ・ 串原農林についても、他に良い取材候補がない場合の対象にするということにしている。(丹羽)
- ・ 取材先のマップを作ってはどうか。(蔵治、洲崎)
 - ▶ 事例集に関わる場所をGISにてマップ化し、HPに掲載することも可能である。住所あるいは紙媒体の地図などで位置を特定してマップ化し、HP上に掲載するときは、個人情報に配慮した表現を検討する。(事務局)

●山村ミーティングについて

- ・ 流域全体に木の駅が拡がってほしい。流域全体の森の健康診断ができたのは矢作川だけである。(丹羽)
- ・ 矢作川「川会議」が今年15回目になる。流域を通じて川をよくしたい、という考えのもとに「山川海流域フェスティバル」みたいなものを開きたいという話が出ている。川べりの、いい雰囲気の中で開催することを考えている。シンポジウムではなく体験型の楽しいイベントにしたい。(洲崎)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・ 施策の持続性はどうか。新たな担い手は確保できるのか。(丹羽)
 - ▶ 豊田市も構想リニューアルを考えている。3年かけて新しくしていく、というねらいで考えている。海外を含めていろいろな事例を見ていく予定である(鈴木)
- ・ 山間地で生まれ育った人が担い手として育たず離れていく。それは作業員賃金が確保できず、木材価格も安いから、家族を養えないことも原因にある。(林)
- ・ 最上川流域全体と広島県の安佐南で森の健康診断をやりたいという話が出ている。その話が出たのもそこで災害があったからである。矢作川モデルを「日本を救うモデル」として広めていくという意識で活動すべきである。(丹羽)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ スギダラキャラバンの予定の一つとして、TASKI(中部先進5都市環境)サミットを根羽村にて開催してもらえることになった。また、安城市の働きかけによって安城市でいくつかイベントを行う予定である。(今村)
- ・ 燕岳(つばくろだけ)下に根羽の木を使った家族風呂を作って根羽をアピールしている。活動の中で曲げわっぱのお弁当作りが第13回SBC学校科学大賞優秀賞を受賞した。また、根羽の木で木の丸太皿を作り、KIHACHIで使用してもらっている。他に、根羽の木を使ったおもちゃを作るなどをしている。子供のころから木を使うことで木を好きになるよう意識付けし、教育していこうと考えている。(今村)

●講演会：矢作川流域における生態系サービス供給－受益関係の地図化について

生態系サービスを森林にどう使い、それを政策に活用する方法を表現したいと考えています。これまでは特定の場所だけが地図化されていましたが、広く供給地と受益地に関する科学的な研究をしたいと考えました。研究として市民が住民税などで支払っている水源かん養などの受益税を、受益者が受益した分だけ払い、しかも供給元へその分を渡す税の仕組みをつくることを目的としています。

- ・ たとえば、洪水がよくおこる地域の人たちが受益者となるが、弱者ともいえるそういった人々が受益税としてより高い額を払うというリスクを負うことになるのは、国民全体の平等性がなくなるのではないかと。(蔵治)
- ・ 鳥についてアメリカのポテンシャルマップを参考に試行しているが、アメリカのような広いところではある程度正解ができるが、愛知県だと正解になる以上に、不正解が多くなる。地勢が違う国のモデルで検討するのは難しいのではないかと。(高橋)
- ・ コンセンサスのとれた「良い森」のモデルを作り、それを目指して人が森を作っていくという方法もあるのではないかと。(今村)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会WGは、6月11日(木)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

